

## 城下町と防災のまちづくり

江戸時代、城下町には火事に備え「町火消」という組織がありました。「火事と喧嘩は江戸の華」と言われていますが、川越でも火事になると町内に深く関わりのある職人などが火消し役となり、消火や類焼を防ぐために活躍しました。鳶が纏を振りかざし火の勢いに立ち向かう威勢の良さは、まさに火事場の華と言えました。また、「木戸番」と呼ばれる番人は、町内の見回りや火の番に当たると、町内の自治組織が確立されていました。

近代的な消防組織の登場は、明治26年の川越大火の翌年に組織された「川越消防組」が初めてで、町火消の流れをくんでいます。時代は変わっても、先人たちの町への思いやりや、そこに暮らす人々の絆は、時を越えて受け継がれています。現在も町内では、自治会の夜回りや自主防災組織の訓練等、防災のまちづくりに取り組んでいます。

夕刻のまちに響く時の鐘とともに、町内に響く拍子木の音色はどこか懐かし、安心感を与えてくれます。



昭和30年代中ごろまで続けられた高沢橋上流での放水訓練



現在の消火訓練の様子



## 伊佐沼農産物直売所

10月から開店時間を9時に早めた伊佐沼農産物直売所。「より良いものを選んで買いたい方は、朝がおすすめですよ」と話すのは、直売所を運営する(株)めぐり小江戸の綱島寛之さん。1日平均400人、週末には600人もの方が訪れるため、午前中に売り切れてしまう野菜もあるそうです。

市内各地から集まった旬の野菜が常に15~20種類並び、それらを使った総菜コーナーもあります。また、伊佐沼庵(うどん店)が隣接していることもこの直売所の特長です。使われている野菜やうどん粉の小麦は地元のもので、気軽に地元の食

材を味わえます。

伊佐沼農産物直売所が始まって、11月でちょうど10年になります。11月21日(土)・22日(日)には10周年記念フェアとして、川越産コシヒカリの安売りなどを企画しているそうです。皆さんも一度足を運んで、新鮮な地元の食材をぜひ味わってみてはいかがでしょうか。



この時期のおすすめは、葉物野菜です

### この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜

ホウレンソウ、小松菜、サトイモ、ダイコン、ニンジン、白菜、カブ、ジャガイモ、ごぼう、キュウリ、長ネギ、チンゲン菜、タマネギ



昭和60年ごろの川越駅東口



現在の川越駅東口

ア トレ川越の7階では開業25周年を記念した写真展「川越駅周辺の今と昔」が開催されています(見学自由。12月7日(月)までの午前10時~午後10時30分)。駅周辺の移り変わりの様子を見に出かけてみませんか。

編集後記  
どんぐり

東 武東上線川越駅に設置された「驛の鐘」は高さ3・2m(看板部分含む)。これまでであった案内看板が川越のシンボルである時の鐘型に変更されました。驛の鐘側面にはパンフレットラックやデジタルサイネージ(電子看板)が備え付けられ、訪れる人に川越を中心とした観光情報を伝えます。多くの人が行き交う川越駅に新たな待ち合わせスポットが誕生しました。